

横浜市感染症発生動向調査報告(令和7年12月)

委員会開催日(2025年12月25日)時点のデータになります。

『今月のトピックス』

- インフルエンザは4週連続で減少していますが、流行警報は発令中です。
- 感染性胃腸炎が増加傾向です。
- 梅毒は幅広い年齢層で患者の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象 <2025年11月24日～12月21日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	10件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
つつが虫病	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	7件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	21件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	百日咳	40件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症:** 10歳代～70歳代で、O血清群はO157が4件、O26が1件、O103が1件、O126が1件、O不明が3件です。経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が7件です。
2. **E型肝炎:** 50歳代で、感染経路は経口感染と推定されます。
3. **つつが虫病:** 40歳代で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されます。
4. **レジオネラ症:** 50歳代～90歳代で、肺炎型が6件、ポンティック熱型が1件です。感染経路等は水系感染と推定される報告が5件、水系感染・塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
5. **アメーバ赤痢:** 60歳代で、感染経路等は経口感染と推定されます。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:** 70歳代で、感染経路等はその他と推定されています。
7. **クロイツフェルト・ヤコブ病:** いずれも70歳代で、病型は古典型CJDです。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 40歳代～80歳代で、血清型はA群が2件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):** いずれも30歳代で、感染経路は性的接触(異性間1件、同性間1件、詳細不明1件)と推定されています。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 60歳代で(ワクチン接種歴不明)、感染経路等は不明です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症:** 30歳代～80歳代(ワクチン接種歴無4件、不明3件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が5件です。
12. **梅毒:** 10歳代～80歳代で、早期顎症梅毒Ⅰ期6件、早期顎症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者が8件です。性的接触による感染と推定される報告が20件(異性間16件、同性間1件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が1件です。
13. **百日咳:** 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回14件、2回1件、無4件、不明21件)で、家族内感染と推定される報告が8件、周囲の流行と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が28件です。

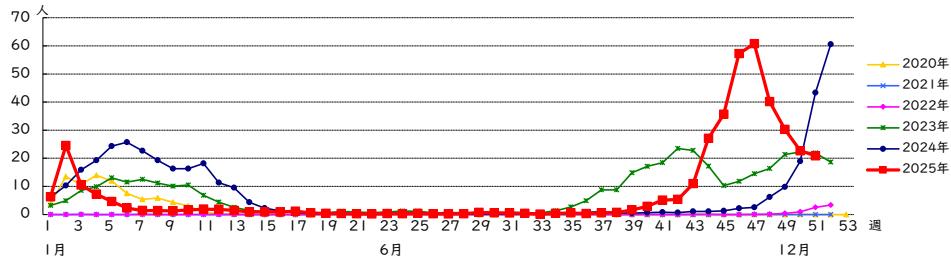
報告週対応表	
2025年第48週	11月24日～11月30日
第49週	12月1日～12月7日
第50週	12月8日～12月14日
第51週	12月15日～12月21日

◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39 医療機関に変更されました。

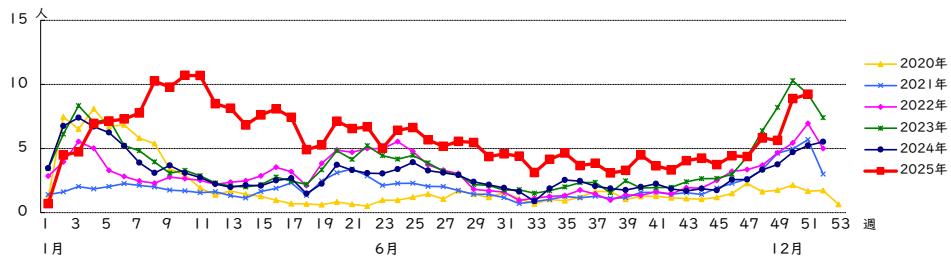
1 インフルエンザ

第37週(9月8日～9月14日)以降増加が続き、第43週(10月20日～10月26日、定点あたり10.95)に流行注意報発令基準(10.00)を、第45週に35.63で、流行警報発令基準(30.00)を超えるました。その後増加が続き、第47週には60.78となり、報告数が昨シーズンのピークを超えるました。以降減少傾向が続き、第51週は20.89です。



2 感染性胃腸炎

第46週以降増加傾向が続き、第51週は9.22です。



3 性感染症(2025年11月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:16件	女性: 9件
尖圭コンジローマ	男性:21件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.25	0.25	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2025年11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	19件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025年第48週～第51週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点104件、基幹定点1件、定点外医療機関1件でした。

1月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離24株と遺伝子64件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第48週～第51週)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状等		
	上 気 道 炎	下 気 道 炎	発 熱
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	— 3		
インフルエンザウイルス AH3	20 11	3 3	1 2
インフルエンザウイルス A (亜型未同定)	— 14	— 3	
ライノウイルス	— 6	— 3	
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	— 9		— 1
パラインフルエンザウイルス 1型	— 1		
パラインフルエンザウイルス 2型	— 1		
ヒトメタニューモウイルス	— 1		
アデノウイルス 2型	— 1		
アデノウイルス 5型	— 1		
アデノウイルス 型未同定	— 3	— 1	
合 計	20 51	3 10	1 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【微生物検査研究課 ウィルス担当】

〈細菌検査〉

2025年第48週～第51週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症9件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症2件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、薬剤耐性エロモナスの精査2件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症3件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎6件、感染性胃腸炎1件、「ARI定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第48週～第51週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	9	O157:H7 VT1 VT2	(2)
			O157:H7 VT2	(1)
			O26:H11 VT1	(1)
			O26:H11 VT2	(1)
			O126:H- VT1	(1)
			O166:Hg15 VT2	(1)
			OUT VT1	(1)
			OUT VT2	(1)
基幹定点	サルモネラ症	2	A群溶血性レンサ球菌 TUT	(1)
			G群溶血性レンサ球菌	(1)
			Aeromonas sp.	(1)
			Klebsiella pneumoniae	(1)
小児科	溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	Haemophilus influenzae	(1)
			Aeromonas sp.	(2)
ARI定点	感染性胃腸炎	2	Salmonella Schwarzengrund	(1)
			Salmonella O4群(4:i:-)	(1)
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	3	喀痰	Legionella pneumophila SG1 (1) レジオネラ属菌 培養陰性 (2)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	A群溶血性レンサ球菌 T1 (1) A群溶血性レンサ球菌 T4 (2) A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2)
	便	感染性胃腸炎	1	Campylobacter coli (1)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	百日咳菌遺伝子 隆性 肺炎マイコプラズマ遺伝子 隆性 溶血性レンサ球菌 培養 隆性 百日咳菌培養 隆性 (3)

【微生物検査研究課 細菌担当】